

大阪府環境審議会水質規制部会（第1回）議事要旨

日時：平成23年1月19日(水)16時～18時

場所：国民會館・住友生命ビル 小ホール

議事要旨

- (1) 開会挨拶 環境農林水産部環境管理室長 笠松
- (2) 部会長代理の指名
海老瀬部会長が津野委員を指名
- (3) 議事1「化学的酸素要求量等に係る第7次総量削減計画及び総量規制基準について」

諮問事項、大阪湾の環境の状況、第6次総量削減計画の概要と実施状況を事務局が説明（資料1-1～1-3）

津野委員 CODの負荷量削減の事業では、どのようにその効果を算定したのかわからない事業がある。「高度処理水の河川への還元」「薄層流浄化施設」「農地からの負荷削減対策」など

事務局 国の発生負荷量調査のルールで、効果を算定しないものもある。面源などの算定をどれだけ現実に合わせるかも課題。

海老瀬部会長 削減が進んできて、施策の効果がより問われるところに来ている。合流式下水道の改善についてもどうなのか？ 協力を求めるためにも効果を示す必要がある。

池委員 赤潮の発生件数がH18から上がっているように見える。

事務局 確認件数を示している。日数を加味すると増減が判断できるが...

池委員 CODやりんの濃度とリンクしているようにも見える。

海老瀬部会長 削減できたものと残っているものを明示していかないとおざなりの削減計画になる。

津野委員 りんの場合は外洋からの流入も大きい。赤潮は埋立や護岸の影響も考えられる。

総量削減で計算している施策とそれに関連する施策に分けて書くことは難しいのか。面源を調査しても原単位に反映されていない。

中環審答申「第7次計画の在り方」、スケジュールを事務局が説明（資料1-4、1-5）

海老瀬部会長 16年度と21年度の間の年度のCOD、窒素、りんの発生負荷量を示してほしい。降水量との関係などが判断できる。

津野委員 CODの過マンガン酸カリ酸性法が実状を反映しているのか、そろそろ議論してもいい時期。国では議論になっていないのか？

事務局 再度議事録を確認するが、議論されたという記憶はない。

福原委員 発生負荷量が削減されたにもかかわらず、環境濃度が下がらない理由を

確認したい。

事務局 CODは発生したプランクトンの内部生産分も捕らえる。底泥からの溶出の影響が大きくなった影響もある。

海老瀬部会長 次回部会では、ご意見をお持ちの関係者から意見を聞きたい。人選については一任を

(4) 議事2「1,4-ジオキサン等に係る排水基準等について」

諮問事項、水質の状況、使用実態を事務局が説明(資料2-1~2-4)

池委員 現状で基準を超える事業場の改善はされているのか

事務局 それぞれ対応を検討中。今後とも対象事業場には指導していく。

津野委員 下水道部局とは緊密な連絡を。下水処理場放流水の実態調査をやっておいたほうがいい。

事務局 今後検討したい。

島田委員 資料2-4の表4 1,1-ジクロロエチレンの検出状況は、どの業種から分かるように記載を

津野委員 資料2-3表6の基準超過と最大値の関係が分らない。

事務局 環境基準が0.02mg/Lであったので、それで評価している。

津野委員 ほかでも混同しているところがないか、整理を

資料2-5「排水基準等について」を事務局が説明

津野委員 暫定排水基準の検討では、既設事業場の上水道水源地域以外も記載して漏れなく検討が必要。廃棄物処理法で規制されるものは？

事務局 処分場からの排水

津野委員 それに関して上乗せは？

事務局 ない。中央環境審議会で水質規制部会以外に廃棄物処理基準専門委員会が設けられて検討されている。

福原委員 人の健康保護以外の「特段の理由」の例はあるか

事務局 ふっ素で農作物被害を防止するために基準を設けた例がある。

海老瀬部会長 これまでの基本的考え方を適用してよいか

一同 (異議なし)

津野委員 今まで新設で、暫定排水基準を設けたことはないか

事務局 記憶にない

海老瀬部会長 暫定排水基準は必要ないということによいか

一同 (異議なし)

(5) 閉会